

## 「本山寺山森林づくりの会」活動報告(10/20)

文・写真：武田、写真：山 國

日時：2019(令和元)年 10月 20日(日) 9:30～15:30

気象：晴れ

活動エリア：44林班ろ、は-1

活動内容：水源①の西側斜面の土留め作業(44林班ろ)とモニタリング調査区①の整備(は-1)

参加者：泉家恵子、斧田一陽、大本孝子、小櫃徹夫、倉谷邦雄、黒山泰弘、薦田佳一、杉本佳英、武田壽夫、  
中村賢三、福西勇之介、宮本 廣、山 國 計13名

### <(一寸早いけど)冬が来る前に…>

例年、標高の高い44林班での活動は10月で終え、11月からは活動地を下の45林班に移す。今日で上部での整備は一区切りにしたい。仕残しているのは斜面の土留め。一帯は元々表土が薄い上に倒木・放置木が散乱する裸地で、放置しておくとも土砂崩れも懸念される。もとより、我々の力は乏しいが出来る手当はしておきたい。夏季の活動で尾根の端までの東西両斜面はほぼ整備を終えているので、この尾根での総仕上げでもある。A班、10名が担当。

もうひとつ、最高所のモニタリング調査区①は台風で傷めつけられた場所で、そこへの作業道の傷みも激しい場所。出来るだけ除伐・林床整備を済ませ、さともり事務局の査察に備えたい。

B班3名は自然歩道を山頂に向う。

### <今日の成果>

「土留め」のA班は作業手順を都度綿密に相談。特に手古摺ったのは斜面に重なる倒木の運搬と柔らかい土壌への杭打ち。場所によっては身体が滑り落ちないようにロープも掛けて斜面を移動するなど、安全確保には知恵と万全を期す(写真参照)。艱難辛苦ぶりを想像願いたい。一日がかりで裸地の斜面一杯の土留め完工。

B班は調査区の広葉樹の除伐、地表への日照を確保し、幼木を育ち易くする観点から高木に手をつける。尤も、台風後の新しい倒木も見られるなど、作業道に被さる枝処理に手を取られ調査区に着いたらもう昼飯時。白テープを巻いて選木して除伐に取り掛かる。

活動中、山田会員が嵐山から摂津峡を目指すトレラン仲間を見学案内、また、倒れていた民地との境界杭を埋め戻し。

### <街には鳥の巣と卵、山では冬眠前の「ジムグリ」と雪を待つスキー場>

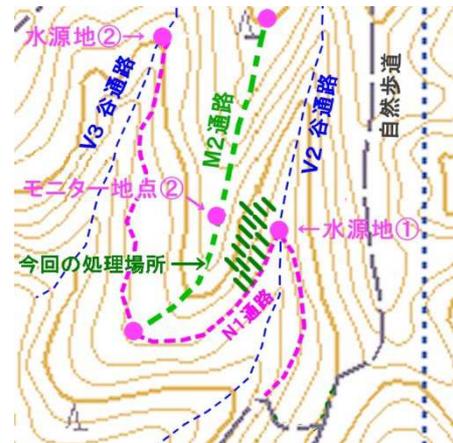
高槻駅前では卵二つを抱いた鳥の巣を発見、親鳥は誰れ??。山では「ジムグリ(地潜)」が頭隠して…。ひるがの高原では秋の訪れ遅れスキー場のコキアがようやく色を増してきたとのこと(井上会員)。

(本文 終り)

【集合写真(終了後)】



【活動地要図ー緑色の部分】



【ご覧の通りの裸地 この一帯に土留めを築く】



【地面が柔らかく杭打ちはままならない  
一滑り落ちぬよう、片方を押さえている】



【斜面の移動は張ったロープが頼り】



【周辺から用材を掻き集めて施工完了】



【ジモグリー林床好きで地中や石の下に潜るのが得意とか。好物はネズミやモグラなど】



【境界の倒れた石標を引き起す】  
—立木が根こそぎ倒れ、その煽りで倒れた



【モニタリング調査区①—(除伐前)】



【調査区①—左写真中、中央部の広葉樹を除伐】



【高槻駅前の二つの卵—パパ、ママはお出かけ???】



【岐阜県 ひるがのスキー場のコキア】

